

解答

一

問一	全う・完全
問二	つよい、しいる
問三	顔 2 紙
問四	サツ 2 りっとう
問五	3 八
問六	目
問七	⑤
問八	簡素
問九	九 2 三

二

問一	周りのいろ
問二	ウ
問三	「批判」は単なる好き嫌いだが、「批評」は好き嫌いの理由を言葉にして言える。
問四	イ
問五	ア、エ
問六	ア
問七	イ
問八	すべての人に自分なりの「自己ルール」があり、他人から見ると偏りがあること。
問九	他の人と「自己ルール」を批評しあうこと。
問十	それぞれの「自己ルール」の違いをお互いに認めあい調整して、違いは個性として受け入れていくべきだと思う。

三

問一	高度な技術者で経営者でもあった父が、駄まえでのチラシ配りなどをさせられていること。
問二	ア
問三	勇気をだして伯父に直接抗議するつもりだと話したら、父が笑って受け止めてくれたから。
問四	父について心配し、手伝おうとすること。
問五	エ
問六	季節：秋・雨音が弱ま
問七	ウ
問八	父に反発していた時期もあったが、今は父を身近に感じ、お互いに素直になれ、温かいものにくるまれているような気持ち。

解説

二

問十	前半部分の最後に述べられている「大事なものは、いろんなものを「批評」しあうことで、友だちと自分の「自己ルール」を交換しあい、確かめあい、そしてそのことでそれを調整しあっていくということです」という筆者の考えをふまえ、まとめましょう。
----	--

三

問八	「この父を好きだと、今なら迷いなく答えられる」「身近になった父が、ありのままの姿を示してくれる
----	---

からだった」という描写や「おまえをよろこばせるのが、そんなに安あがりなことだったとはね」という父との会話などから、父に対して素直になっていく様子が読み取れます。